

友情がつなぐ夢の室内楽、日本で実現！

2014年春、シベリアのノヴォシビルスクでフェスティバルがスタートし、国際的な注目を集めている。

トランス＝シベリア芸術祭 ―フェスティバルの音楽監督は、ノヴォシビルスク出身の人気ヴァイオリニスト ワディム・レーピンだ。

いまや世界で最も重要な演奏家として活躍するレーピンの悲願が、故郷でついに実現した。「ワディムのためなら!」とシャルル・デュトワ、レナード・スラトキン、ケント・ナガノといった名だたるマエストロ、そしてミッシェル・マイスキー、ピンカス・ズーカーマン、諏訪内晶子、ニコライ・ルガンスキー、オルガ・ボロディナ、ボロディン弦楽四重奏団といった錚々たる演奏家たちが、シベリアの地に駆けつけている。スタートから第3年目を迎える今年、フェスティバルは、5月にイスラエル、6月には日本へと広がることとなった。レーピンがこよなく愛する日本のために実現させた今回の日本公演、まさに日本の音楽ファンへのプレゼントとも言える顔ぶれとなった。世界屈指のソリストたちによる深く、そして激しい競演をお聴き逃しなす。

ヴァイオリン: ワディム・レーピン Vadim Repin, Violin



1971年ノヴォシビルスク生まれ。5歳でヴァイオリンをはじめ、その6ヶ月後にはステージで初めての演奏を果たした。11歳でヴェニエフスキ・コンクール優勝、1985年には14歳にして東京、ミュンヘン、ベルリン、ヘルシンキ、翌年にはカーネギーホールにデビュー。そしてさらに2年後、17歳でエリザベート王妃国際コンクール優勝、以来、ベルリン・フィル、ボストン響、シカゴ響、クリーヴランド管、イスラエル・フィル、ロンドン響、パリ管、コンセルトヘボウ管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィル、スカラ・フィルをはじめ、世界有数のオーケストラと共演を続けている。リサイタル、室内楽でもルガンスキー、アルゲリッチ、キーン、マイスキー、クニャーゼフ等がパートナーである。CD録音も多く、ワーナー、ドイツ・グラモフォンに数々の名盤を残している。使用楽器は1735年作のゲルネリ・デル・ジェズ「ラフォン」。2014年より芸術監督として故郷ノヴォシビルスクにてトランス＝シベリア芸術祭を主宰している。

ヴァイオリン: 諏訪内晶子 Akiko Suwanai, Violin



1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。2012年、2015年、エリザベート王妃国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。デッカより13枚のCDをリリース。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロムビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学んだ。使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」。

チェロ: ミッシェル・マイスキー Mischa Maisky, Cello



ラトヴィア共和国生まれ。ロストロポーヴィチとピアティゴルスキ両巨匠に師事した世界で唯一のチェリスト。ロンドン、パリ、ベルリンなど世界の主要ホールに出演、熱狂的な支持を受け続けている。

ドイツ・グラモフォンの専属アーティストとして、25年間で30を超える録音をリリース。これまでにグラミー賞へのノミネートやエコー・ドイツ・シャルブラッテン、パリのディスク・グランプリなど受賞多数。

その輝かしいキャリアのなかでも特にバッハの演奏では高い評価を得ており、2000年にはバッハ・プログラムで100以上の公演を行い、無伴奏チェロ組曲の3度目のレコーディングもリリースされた。

これまでにバーンスタイン、メータ、ムーティ、レヴァイン、シノーポリ、パレンボイムら名指揮者たち、さらにアルゲリッチ、ルプー、キーン、P.ゼルキン、クレメル、バシュメット、ヴェンゲロフほか世界のトップ・アーティストらと共演している。

ピアノ: ニコライ・ルガンスキー Nikolai Lugansky, Piano



モスクワ音楽院に学び、師タチアナ・ニコラーエワは、彼をロシアの偉大なピアニストの系譜を継承する「次なるピアニスト」と賞賛した。近年もボストン響、ニューヨーク・フィル、パリ管、ロンドン響、サンクトペテルブルク・フィルなどへの客演のほか、ベルリン・コンツェルトハウス、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ロンドン・ウィグモアホール、モスクワ音楽院大ホール、シャンゼリゼ劇場など世界の音楽の殿堂でリサイタル、そしてミッシェル・マイスキー、ワディム・レーピン、アレクサンドル・クニャーゼフらと室内楽を行っている。BBCプロムス、ラ・ロック・ダンテロン、ヴェルビエ、エディンバラなどの国際音楽祭にも定期的に登場。レコーディングも多く、最新盤はシューベルトの作品集、これまでディアパソンドール、エコー・クラシック、ドイツ・レコード批評家賞など受賞も多数。2013年にはロシアの芸術家に与えられる荣誉称号である、ロシア人民芸術家を授与されている。

ヴァイオリン: 田中杏奈 Anna Tanaka, Violin



1996年生まれ。5歳でヴァイオリンを始める。2007年以来ノヴォシビルスク音楽学校のマリナ・クジナのクラスに学ぶ。2011年オムスクのヤンケレヴィッチ国際コンクール、2012年ウラジオストック国際コンクールにて優勝、2013年にはワイマールのシュポア国際コンクールで第2位入賞。2012年よりワディム・レーピン財団の奨学金を受けている。2014年ノヴォシビルスクのトランス＝シベリア芸術祭、サンクトペテルブルクの白夜祭にも出演。ノヴォシビルスク・フィル、トムスク響とはソリストとして共演もしている。

ヴィオラ: アンドレイ・グリチュク Andrei Gridchuk, Viola



イルクーツク出身。6歳で地元のオーケストラと協奏曲を共演、その後モスクワ音楽院に学ぶ。1984年ソヴィエト国立ヴィオラ・コンクール、1989年にはオルレアン・モリス・Vieux国際ヴィオラ・コンクールにて優勝。モスクワ・ソリストのメンバーとして世界中で演奏。ソロ活動はもちろん室内楽にも積極的に参加、バシュメット、ペレゾフスキー、イッサーリス、マイスキー、レーピン、シコトヴェツキー、ボロディン弦楽四重奏団らと共演。1993年よりベルリン・ドイツ・オペラ首席奏者。使用楽器は1750年製のパオロ・アントニオ・テステレ。

<トランス＝シベリア芸術祭 in Japan 2016 東京公演>

「スヴェトラナ・ザハロワ&ワディム・レーピン」
パ・ド・ドゥ for Toes and Fingers
2016年6月17日(金)19:00開演 サントリーホール
[出演] バレエ: スヴェトラナ・ザハロワ
ヴァイオリン: ワディム・レーピン
バレエ: ミハイル・ロブチン、ウラジーミル・ヴァルナヴァ、
ドミトリー・ザグレピン
祝祭室内奏楽団

「レーピン&諏訪内&マイスキー&ルガンスキー」
2016年6月18日(土)18:00開演 サントリーホール
[出演] ヴァイオリン: ワディム・レーピン、諏訪内晶子、
田中杏奈
ヴィオラ: アンドレイ・グリチュク
チェロ: ミッシェル・マイスキー
ピアノ: ニコライ・ルガンスキー

「レーピン&マイスキー 協奏曲の夕べ」
2016年6月22日(水)19:00開演
東京オペラシティコンサートホール
[出演] ヴァイオリン: ワディム・レーピン
チェロ: ミッシェル・マイスキー
指揮: 広上淳一
管弦楽: 日本フィルハーモニー交響楽団

詳細は、www.amati-tokyo.com